

1 自己評価及び外部評価結果

ユニット名: コスモス

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200062		
法人名	社会福祉法人岐宿園		
事業所名	グループホーム岐宿園		
所在地	長崎県五島市上大津町596番地1		
自己評価作成日	平成28年12月15日	評価結果確定日	平成29年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・アットホームな雰囲気自宅に近い環境で過ごして頂けるよう心がけている。 ・入居者同士が仲良く住みやすい環境で過ごすことができる。 ・看取りは出来ない状況にはあるが出来る限り園での生活を楽しんで頂いている。 ・国民年金だけで入居できる。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/42/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvoCd=4292200062-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成29年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念を落とし込んだ職員の目標が具体的でわかりやすい。例えば、「笑顔で感じの良い挨拶」や、「声のトーンは明るく、温かみのある言葉かけ」等が挙げられる。このように理解しやすい内容が列挙されているが故に、理念に沿ったケアの実践が定着して、日々の理念に沿ったケアの意識づけを伺うことができた。また、事業所は広い敷地の中にあるため、伸び伸びとゆっくりとした生活を営むことができる。また、各居室全てにトイレと洗面所も設置してあり、プライバシーの確保も含めて、安全で安心できる居住空間であった。最後に岐宿園は現住所に移転して、まだ日が経たない中、今まで培ってきたノウハウを活用して、できるだけ早く地域に貢献したい気持ちを抱いている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「岐宿園の理念」「職員の目標」を朝礼に唱和し、管理者・職員共に実践に繋げている。	「岐宿園の基本理念」を落とし込んだ「職員の目標」が6項目あり、更にわかりやすい記述として「コミュニケーションの基本姿勢」という一枚物の書面を確認した。このように文言をコンパクトにまとめて、共有しやすい工夫をしている。更に朝礼で呼称したり、敬老会等の場面で、家族に基本理念の意味合いを伝えたり、新人研修の資料として活用し続けた結果、特に利用者への丁寧な対応が定着してきた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事であるパラモンキングの応援やチャンココ・福江祭りの炎上太鼓を迎えいれたりしている。	現住所地に事業所を構えて、まだ日が経たないため、地域との関係構築は、移転前の関係性も大切にしつつ、今からじっくり始動するという状況であった。このような中でも、近隣の保育園や町内会から声がかかっている様子なので、少しずつ関わりの輪を広げていく方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は利用者様のご家族や知人の方・施設見学の方にグループホームの理解や認知症の説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状況を報告・行事の報告を行っている。職員が講師を務め、感染症や身体拘束・虐待などの勉強会を行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は定期的開催されており、議事録はきれいにまとめられていて、内容もわかりやすく、誠実に取り組まれていることが見て取れた。特徴的な取組みとして、会議の場面で職員が講師となり、季節に応じた感染症の話や、ストレスに関するテーマで講話して、関係者が一体的に情報を共有する姿勢があった。また、運営推進会議開催後、職員へ朝礼等で報告はあるようだが、議事録そのものを、回覧する仕組みまでは至っていなかった。	運営推進会議の議事録を職員間で共有して、家族とのやり取りや地域、行政関係の情報を、職員全体で把握した上で、総合的な利用者支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が運営推進会議に参加している。介護保険の手続きなどで本所に行き、顔なじみになり相談できる関係作りが出来ている。	主に市の職員と関わりを持つ場合は、2ヶ月に1回の運営推進会議の場となるが、これ以外で権利擁護の件や、生活保護の申請の件で相談したことがある。このように普段から定期的な関わりを持つことができているため、公的な制度の活用方法等を、気兼ねなく相談することができる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を行っている。朝礼時、事故報告・ヒヤリ・ハット等の報告を行い、対策を話し合っている。やむを得ず身体拘束を行う場合、家族に必ず説明・同意を得た上で出来る限り最少限に努め、毎月ミーティングで検討会を行っている。	原則として身体拘束はしない旨、重要事項説明書の一文より確認することができた。職員への教育としては、定期的に研修を行い、繰り返し意識づけを実施することとしている。このような取り組みの結果、緊急やむを得ず実施した後も、どのようにやったら実施しなくていいのか、考える習慣がついている。今後、職員教育の一環として、身体拘束廃止指針の活用や、身体拘束廃止委員会の再開等、今よりも身体拘束廃止に向けた取り組みを、充実させる手段が残っている。	法人として、身体拘束廃止指針を設けているとのことであった。この指針も研修の材料として活用し、身体拘束廃止に係る、職員教育のボリュームアップを期待したい。また、現在、法人に設置されている身体拘束廃止委員会は、休止状態とのことであった。この活動も再開して、身体拘束廃止に向けた更なる取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、研修会を行い、全職員が知識と理解を深め虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で社会福祉協議会より、講師を招き研修会を開いている。職員によっては実際関わりが少ないため理解しにくい、研修会年間計画に取り入れている。必要に応じ活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、ご利用者やご家族の方に見学や十分な説明を行い理解・納得して頂き、同意を得て契約している。改定の場合も通知し、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時やケアプランの説明時に、ご本人やご家族の意見を聞くようにしている。毎月家族へ手紙を出した際、園での様子や健康状態・通院の状況を書き、要望を聞くようにしている。 玄関には「意見箱」を設置している。	運営推進会議や、面会時等の日常的な会話の場面、ケアプランの説明時に、事業所に対する気づきがないか、意図的に確認するようにしている。また、家族とのやり取りの一環として、月に1回利用者の状況を手紙に綴って投函している。このような取組みの積み重ねにより、家族との信頼関係も構築されて、風通しの良さの一助を担っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見・提案を出し合っている。また、個人面接など行い職員の意見を聞くよう心がけている。	職員と上位者が話す機会として挙げられるものは、形式的な場面として、1日1回の朝礼と、月に1回のユニット毎の会議が挙げられる。また、3ヶ月に1回理事長との個人面談もあるということで、この機会に職員配置の件や勤務時間等、運営に係る意見を伝えることができています。このような積み重ねで、職員間の風通しが良くなっていくため、継続して実施していく方針であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実力や実績を把握し、働きやすい職場作りをしている。職務の意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会案内を回覧し、参加を促している。不公平のないよう一覧リストを作り、偏りのないよう努めている。年間研修会計画を立て研修会を岐宿園全体で月1回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1度グループホーム連絡協議会へ参加し、他の施設との情報交換の場になっている。ご利用者様の見舞いがたら施設を相互訪問し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り情報収集し、職員が情報を共有して本人様の困っていること、不安なこと、要望に耳を傾け、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方や本人様に不安なこと、要望をお聞きし、安心して頂けるような関係作りに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の希望をお聞きした上でご本人の状況を把握し、要望に応じるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を介護する一方の立場におかず、出来ることはして頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めにご家族宛てに、園での様子や健康状態を書いた手紙を出し、園での様子がわかるように「岐宿園だより」を発行し、同封している。 本人様の近況を代弁したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から通っていた美容室やお店・かかりつけの病院などに行けるようにしている。また、お客様に来て頂いたことに感謝の言葉や挨拶を大切にしている。	利用者の馴染みの関係を遮断しないためにも、利用者が昔から通っていた美容室の方が事業所に来てくれたり、事業所の職員や家族と一緒に墓参りやお店に行く等、目的地へ行ったり、来てもらったり、環境に応じた柔軟な対応を実践している。また、面会があった際は、次も快く面会に来れるようにと、感謝の言葉を伝えているところが、事業所としてのぬくもりの表れである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつの時間(10時・15時)には、全員が食卓に揃い、おやつの後にはレクリエーションやお話を楽しんでいる。孤立せず皆さん楽しく過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院してからの退所が殆どであるが退院後ご家族や本人様のご希望があれば有料で待機して頂き、空きができれば入所して頂くようにしている。 身近に頼れる方がいない場合など支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・表情・行動等から思いや意向の把握に努め、職員間で共有、思いや意向を叶えるよう努力している。また、サービス計画書作成時でのモニタリング、要望・意見などお聞きし反映させている。	一人ひとりの利用者と居室等でゆっくりと時間をかけて話しをする中で、思いや意向を汲み取る努力をしている。利用者の思いや意向を「申し送りノート」に記入して、職員間で共有し、ミーティング時に話し合い、客観的に検討している。思いや意向を全職員で検討し把握する仕組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報・基本情報・看護サマリー等ご本人・ご家族の意向をお聞きした上で介護を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握し、出来るところを見極めながら、自立に向けた支援を行っている。小さな変化も気付けるよう職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度は介護計画の見直しを行い、ご本人・ご家族に説明し、同意・署名・捺印をして頂いている。介護計画書はご本人・ご家族・担当者・看護師・職員の意見を反映させている。	利用者の思いと面会時や自宅に伺って把握した家族の意向、全職員と看護師で作るアセスメントを基に、ミーティング時に意見を出し合い、全職員で介護計画を作成している。介護計画のサービス内容に沿って実施できたかを毎日チェックし、共有する事で支援方法を確認し統一している。3ヶ月ごとに全職員でモニタリングを行い、次の介護計画に繋いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作り、経過観察とバイタル表に記録している。バイタル表は体温・血圧・脈拍・排泄・食事・入浴・NS処置・通院・水分補給など記録し、職員間で情報を共有、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や買い物、ご本人の要望による外出など必要に応じ、柔軟に対応するよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回(9月・3月)の消防訓練に消防署と中村防災の協力を得て行っている。地域の行事の参加や催し物を招いたりしている。チャンココ・炎上太鼓など定期的に地域とのかかわりを持てるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医療機関に継続して受診出来るようにしている。体力や状況によって往診の出来る協力医療機関に変更して頂くこともある。結果も手紙・面会時・電話で、ご家族に報告している。	利用者や家族が希望する医療機関に受診できるように支援している。通院は基本的に看護師や職員が対応し、受診結果や利用者の状況は、月1回、家族に細かく報告している。受診時に看護師がバイタル表を医師に説明し、医師との信頼関係を築いている。受診内容は「医療指示記録」に記入して職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者に異常があった場合は、昼夜を問わず看護職員に報告し対応している。毎日バイタルサインのチェックを行い異常の早期発見に努め、報告を常としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関へ看護サマリー等情報提供を行い病状説明を家族と一緒に聞くようにしている。できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に看取りの説明や重度化した場合などホームの方針を伝えている。看取りが出来ない状況にある中、最期はどこで迎えたいと思っているのかなど、家族に悔いのないよう随時話し合い行き違いのないよう努めている。	重度化した場合の事業所の方針を、入所時に家族に説明している。状況変化の度に看護師が家族に状況説明を行い、話し合いを繰り返す中で重度化した場合の方針の統一を図っている。看護師と24時間連絡がとれる体制が整い、利用者や家族、職員の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に講師を依頼し、年1回救急救命の研修を実技を交えて行っている。急変の対応マニュアルを作り、敏速に動けるよう全職員が周知できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間と昼間を想定した消防訓練を年2回(9月・3月)行っている。災害の際は同じ法人の協力を得るようになってきている。また、夜勤者は防災のための自主検査チェックを毎日行っている。	消防計画に基づく避難訓練を消防署の立ち会いのもと実施している。自然災害対策として防災マニュアルを作成して年1回定期的に見直しを行っている。今月中に自然災害を想定した避難訓練を計画している。同法人の他事業所との協力体制が整い、市の消防担当者とも日頃から連絡を取り合っている。米、缶詰、飲料水、医療用品等の備品を準備し、防災のために「自主検査チェック表」で毎日点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重する言葉や接し方について接遇の研修会も毎年行い、「職員の目標」の中にも盛り込まれている。アンケート調査など行い、接遇改善に努めている。	「職員の目標」の中に利用者の人格を尊重する言葉かけや接し方、態度が具体的に明記され、毎日の朝礼時に確認している。研修会も開催して、職員への意識付けが浸透している。日常的な確認と改善に向けて事業所全体で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの際など、どの服がいいかを選んで頂いたり、買い物や散歩など、ご本人の自己決定を大切に支援させて頂いている。入居者様との会話を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れがあり、希望に添えないという不安もあるが、強制することなく、一人ひとりの希望や自己決定を大切に、心身の状況を把握。要望に答えるよう努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き付けの美容院や床屋にいたり、園に来て頂いたりし、利用者の馴染みを大切にしている。服装も出来る限り希望に沿うように心がけ、素敵な身だしなみやおしゃれなど褒めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事量や好みを把握し、盛り付けや形状など工夫、楽しく食べて頂くよう心がけている。食事前後のティッシュ箱やゴミ入れなどの準備や片づけ等、出来る事をして頂いている。	栄養士が作成した献立に基づいて職員が調理している。一人ひとりの利用者の食事量をチェックし、好みを聞き取り、情報を調理室に貼ってメニューに役立っている。利用者にあった食事形態を職員間で話し合い「申し送りノート」に記載して共有し、調理方法を検討している。「イカ焼き、たこ焼きパーティー等」を行い、レストランに食事に行く等、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により献立がつけられ、食材が届き調理している。食べやすい形状や好き嫌いに配慮し、食べて頂けるよう努力している。入浴後の水分補給・各部屋にペットボトルや水筒を置きいつでも水分補給ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ずその人に合った口腔ケア介助・確認を行っている。義歯は夕食後、洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を取り、排泄パターンを把握。トイレの声掛け・誘導・介助し、その人に合った介助を行い、習慣化することで排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に細かく記録をとり、優しい声かけに注意しながらトイレに誘導している。利用者の動きを観察して職員間で話し合い、支援方法を統一する等、利用者の習慣やパターンに応じた個別の排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便の有無・時間を記入し、排泄パターンを知り、排泄後排尿・排便の確認を行っている。便秘の方には運動やお腹のマッサージ・水分補給を促し、便秘薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は決まっているが一人ひとり希望に出来るだけ浴った入浴時間に行いゆっくりと入浴して頂いている。特に冬場はどの方も浴槽にゆっくりと入られている。場合によっては入浴日以外でも入浴できるよう柔軟に対応している。	利用者一人ひとりの好みを聞き取り、個別の入浴支援を行っている。希望者には同性介助を行い、入浴を嫌がる利用者にはタイミングをみて声かけを行う等、負担感軽減への配慮もある。シャンプーやタオルは好みの物を使い、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを大切に、休息・仮眠を取って頂き自由に過ごして頂いている。室内温度調節を行っており、湯タンポなど希望で行い、気持ちよく安眠できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧があり、全職員が把握できるようになっている。服薬時には、本人確認を確実にマニュアル通りに行うようにしている。処方の変更等は通院・往診後、医療の記録で全職員が確認することになっている。症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技、楽しみを把握し、生きがいを感じられるような支援に心がけている。洗濯ものをたたんだり、カラオケ・散歩・レクリエーション等、気分転換を図りながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば買い物に出かけたり、天気の良い日は季節の花々をドライブがてら見にいたりしている。自宅に行きたいと言う希望もあり、できるだけ叶えるよう努力している。	季節の花々を見にドライブに出かける、打ち上げ花火を事業所の庭で鑑賞する、車いすの利用者も一緒に「足湯」に出かける等、戸外で気持ちよく過ごせるように支援している。お葬式へ参加や好みの洋服を買いに行く等、個別の外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちでは持たず預かるのが基本となっているがコスモスは手持ちの希望が多く、自己責任で所持している方がおられる。希望があれば職員が買ってきたり、一緒に買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を所持し、家族や知人から電話があたりかけたりしている方もおられるが殆どは取次で希望があればかけている。手紙などは読んでさし上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにご利用者の作品を展示したり、季節感のある飾り付けに心がけている。共用の場も温度設定に気をつけ居心地良く過ごして頂き、浴室や更衣の場の温度やトイレの便座の温度設定・換気に注意をしている。	玄関に花を飾り、利用者が作成した手芸品やぬり絵、利用者と一緒に作った季節の飾りをフロアに展示する等、家庭的で居心地のよい空間を作っている。利用者のフロアでの好みの場所が決まっており、安心感に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの畳の間にはテレビ・メドマー・マッサージチェア、玄関にはベンチや椅子が置かれ日向ぼっこしながら外を眺めたり、ご利用者様同志談笑されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきて頂き、希望があれば模様替えやベッドの配置換えを行い、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。(ストーブ以外持込み可)	居室は十分な広さが確保されている。各居室にトイレと洗面台が設置され、自由に洗面や口腔ケアができ、安心してトイレを利用できる環境が整っている。居室には好みのぬいぐるみや家族の写真、仏壇等、馴染みの物が置かれ、利用者が落ち着いて過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札がかかり自室が分かるように配慮し、床はバリアフリーでどこにでもてすりがあり、危険物は除き動きやすくしているが職員一同見守り強化し、怪我のないよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

ユニット名: 菜の花

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200062		
法人名	社会福祉法人岐宿園		
事業所名	グループホーム岐宿園		
所在地	長崎県五島市上大津町596番地1		
自己評価作成日	平成28年12月15日	評価結果確定日	平成29年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=4292200062-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・アットホームな雰囲気です。自宅に近い環境で過ごして頂けるよう心がけている。 ・入居者同士が仲良く住みやすい環境で過ごすことができる。 ・看取りは出来ない状況にはあるが出来る限り園での生活を楽しくして頂いている。 ・国民年金だけで入居できる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

菜の花

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「岐宿園の理念」「職員の目標」を朝礼に唱和し、管理者・職員共に実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事であるバラモンキングの応援やチャンココ・福江祭りの炎上太鼓を迎え入れたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は利用者様のご家族や知人の方・施設見学の方にグループホームの理解や認知症の説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状況を報告、行事の報告を行っている。職員が講師を務め、感染症や身体拘束・虐待などの勉強会を行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が運営推進会議に参加している。介護保険の手続きなどで本所に行き、顔なじみになり相談できる関係作りが出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を行っている。朝礼時、事故報告・ヒヤリ・ハット等の報告を行い、対策を話し合っている。やむを得ず身体拘束を行う場合、家族に必ず説明・同意を得た上で出来る限り最少限に努め、毎月ミーティングで検討会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、研修会を行い、全職員が知識と理解を深め虐待防止に取り組んでいる。職員同士、注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で社会福祉協議会より、講師を招き研修会を開いている。職員によっては実際関わりが少ないため理解しにくいですが、研修会年間計画に取り入れている。必要に応じ活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、ご利用者やご家族の方に見学や十分な説明を行い理解・納得して頂き、同意を得て契約している。改定の場合も通知し、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時やケアプランの説明時に、ご本人やご家族の意見を聞くようにしている(連絡ノートに記入など)。毎月家族へ手紙を出す際、園での様子や健康状態・通院の状況を書き要望を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見・提案を出し合っている。また、個人面接など行い職員の意見を聞くよう心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実力や実績を把握し、働きやすい職場作りをしている。職務の意識を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会案内を回覧し、参加を促している。不公平のないよう一覧リストを作り、偏りのないよう努めている。年間研修会計画を立て研修会を岐宿園全体で月1回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全体的には難しいが個人で同業者の方と知り合いになり、お互い情報共有を行っている(秘守義務以外)。ご利用者様の見舞いがてら施設を相互訪問し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り情報収集し、職員が情報を共有して本人様の困っていること、不安なこと、要望に耳を傾け、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方や本人様に不安なこと、要望をお聞きし、安心して頂けるような関係作りに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の希望をお聞きした上でご本人の状況を把握し、要望に応じるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を介護する一方の立場におかず、出来ることはして頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めにご家族宛てに、園での様子や健康状態を書いた手紙を出し、園での様子がわかるように「岐宿園だより」を発行し、同封している。 本人様の近況を代弁したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から通っていた美容室やお店・かかりつけの病院などに行けるようにしている。 また、お客様に来て頂いたことに感謝の言葉や挨拶を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつの時間(10時・15時)には、全員が食卓に揃い、おやつの後にはレクリエーションやお話を楽しんでいる。孤立せず皆さん楽しく過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院してからの退所が殆どであるが退院後ご家族や本人様のご希望があれば同法人の有料老人ホームで待機して頂き、空きができれば入所して頂くようにしている。身近に頼れる方がいない場合など支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・表情・行動等から思いや意向の把握に努め、職員間で共有、思いや意向を叶えるよう努力している。また、サービス計画書作成時でのモニタリング等にて、要望・意見などお聞きし反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報・基本情報・看護サマリー等ご本人・ご家族の意向をお聞きした上で介護を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握し、出来るところを見極めながら、自立に向けた支援を行っている。小さな変化も気付けるよう職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度は介護計画の見直しを行い、ご本人・ご家族に説明し、同意・署名・捺印をして頂いている。介護計画書はご本人・ご家族・担当者・看護師・職員の意見を反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作り、経過観察とバイタル表に記録している。バイタル表は体温・血圧・脈拍・排泄・食事・入浴・NS処置・通院・水分補給など記録し、職員間で情報を共有、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や買い物、ご本人の要望による外出など必要に応じ、柔軟に対応するよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回(9月・3月)の消防訓練に消防署と中村防災の協力を得て行っている。地域の行事の参加や催し物を招いたりしている。チャンココ・炎上太鼓など定期的に地域とのかかわりを持てるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医療機関に継続して受診出来るようにしている。体力や状況によって往診の出来る協力医療機関に変更して頂くこともある。結果も手紙・面会時・電話で、ご家族に報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者に異常があった場合は、昼夜を問わず看護職員に報告し対応している。毎日バイタルサインのチェックを行い異常の早期発見に努め、報告を常としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関へ看護サマリー等情報提供を行い病状説明を家族と一緒に聞くようにしている。できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に看取りの説明や重度化した場合などホームの方針を伝えている。看取りが出来ない状況の中、最期はどこで迎えたいと思っているのかなど、家族に悔いのないよう随時話し合い、行き違いのないよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に講師を依頼し、年1回救急救命の研修を実技を交えて行っている。急変の対応マニュアルを作り、敏速に動けるよう全職員が周知できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間と昼間を想定した消防訓練を年2回(9月・3月)行っている。災害の際は同じ法人の協力を得るようになっている。また、夜勤者は防災のための自主検査チェックを毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重する言葉や接し方について接遇の研修会も毎年行い、「職員の目標」の中にも盛り込まれている。アンケート調査など行い、接遇改善に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの際など、どの服がいいかを選んで頂いたり、買い物や散歩など、ご本人の自己決定を大切に支援させて頂いている。入居者様との会話を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れがあり、希望に添えないという場合もあるが、強制することなく、一人ひとりの希望や自己決定を大切に、心身の状況を把握、要望に答えるよう努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き付けの美容院や床屋にいたり、園に来て頂いたりし、利用者の馴染みを大切にしている。服装も出来る限り希望に沿うように心がけ、素敵な身だしなみやおしゃれなど褒めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事量や好みを把握し、盛り付けや形状など工夫、楽しく食べて頂くよう心がけている。食事前後などティッシュ箱やゴミ入れなどの準備や片づけ等、出来る事をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により献立がつけられ、食材が届き調理している。食べやすい形状など配慮、栄養摂取の為、食べて頂けるよう努力している。入浴後の水分補給・各部屋にペットボトルや水筒を置き水分補給ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ずその人に合った口腔ケア介助・確認を行っている。義歯は夕食後、洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を取り、排泄パターンを把握。トイレの声掛け・誘導・介助し、昼間はトイレ・夜はPTイレとその人に合った介助を行い、習慣化することで排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便の有無・時間を記入し、排泄パターンを知り、排泄後排尿・排便の確認をしている。便秘の方には運動やお腹のマッサージ・水分補給を促し、便秘薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は決まっているが一人ひとり希望に出来るだけ浴った入浴時間に行いゆっくりと入浴して頂いている。特に冬場はどの方も浴槽にゆっくりと入られている。場合によっては入浴日以外でも入浴できるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを大切に、休息・仮眠を取って頂き自由に過ごして頂いている。室内温度調節を行っており、湯タンポなど希望で行い、気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧があり、全職員が把握できるようになっている。服薬時には、本人確認を確実にマニュアル通りに行うようになっている。処方の変更等は通院・往診後、医療の記録で全職員が確認することになっている。症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技、楽しみを把握し、生きがいを感じられるような支援に心がけている。洗濯ものをたたんだり、カラオケ・散歩・レクリエーション等、気分転換を図りながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば買い物に出かけたり、天気の良い日は季節の花々をドライブがてら見にいたりしている。自宅に行きたいという希望もあり、できるだけ叶えるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が所持していることはあまりないが知らない間にもたれていることがあり、預けて頂くようお願いするが自己責任にて持たれている方もいる。希望があれば職員が買ってきたり、一緒に買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を所持し、家族や知人から電話があつたりかけたりしている方もおられるが殆どは取次で希望があればかけている。手紙などは読んでさし上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーにご利用者の作品を展示したり、季節感のある飾り付けに心がけている。共用の場も温度設定に気をつけ居心地良く過ごして頂き、浴室や更衣の場の温度やトイレの便座の温度設定・換気に注意をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファが置かれ思い思いに座られ職員も混じり楽しく話されている。また、テレビ・メドマー・マッサージチェア・ブリー・平行棒などがあり、希望や機能回復の為使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきて頂き、希望があれば模様替えやベットの配置換えを行い、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。(ストーブ以外持込み可)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札がかかり自室が分かるように配慮し、床はバリアフリーでどこにでもてすりがあり、危険物は除き動きやすくしているが職員一同見守り強化し、怪我のないよう努めている。		